

「鹿児島県の近現代」教育研究センター

近現代センター通信

第3号 2024年3月

—目次—

五代友厚と〈鹿児島県の近現代〉(伴野文亮)	1	平成時代の地方分権改革を振り返る(有馬晋作)	10
五代友厚のシンポジウムの感想(末岡隼)	2	ポツンと篠原國堅の墓(友野晴久)	12
連続トークイベント「#鹿児島県の女性02」(西村知)	3	鹿児島市小松原2丁目10番1号の歴史断章(永山修一)	15
沖永良部の近現代—沖永良部の現在—(澤田成章)	4	『大正三年1914 桜島大爆発の思出集』について(林匡)	19
アートと地域とまちづくり(太田純貴)	6	海音寺潮五郎文学における西南戦争(吉満庄司)	22
アートと地域と美術館(太田純貴)	7	戦艦金剛主計兵米倉重夫と親族(米倉秀一)	25
アートと地域と教育(太田純貴)	8	鹿児島県の近現代文学(3)(鈴木優作)	26
いま水俣病を考えること(中川亜紀治)	9	寄贈資料・今後の予定・編集後記	27

藩校造士館創立250周年・鹿児島大学法文学部附属「鹿児島県の近現代」教育研究センター
 設立1周年記念シンポジウム「五代友厚と〈鹿児島県の近現代〉」
 「鹿児島県の近現代」教育研究センター 特任准教授 伴野 文亮

2023(令和5)年10月29日(日)に、かごしま県民交流センター大ホールにおいて、藩校造士館創立250周年・鹿児島大学法文学部附属「鹿児島県の近現代」教育研究センター設立1周年記念シンポジウム「五代友厚と〈鹿児島県の近現代〉」を開催しました。

本シンポジウムは、第Ⅰ部「基調講演」と第Ⅱ部「トークセッション「五代友厚と〈鹿児島県の近現代〉」」の二部構成で実施しました。

第Ⅰ部では、八木孝昌氏(一般社団法人日本コミュニティカレッジ講師)と井上潤氏(公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館顧問)に講演をお願いしました。八木氏には、「五代の「弘成館」鉦山業一半田銀山をめぐる」というタイトルで、半田銀山(福島県桑折町)をめぐる五代の取り組みについてご講演いただきました。井上氏には「近代日本社会の創造者渋沢栄一の思想と行動～五代友厚との関係に触れながら～」というタイトルで、五代と同時代を生きた実業家である渋沢栄一の思想と行動について、途中渋沢の五代評にも触れていた

だきながらご講演いただきました。

第Ⅱ部では、メディアにおける「五代友厚」像の形成や、五代と鹿児島との関係をめぐる〈記憶〉の継承のあり方をテーマとして、多彩なゲストを招いて議論しました。登壇者は上記基調講演者に加え、田中光敏氏(映画監督)、寺尾美保氏(立教大学特任准教授)、下豊留佳奈氏(郷土史家)の3名をゲストとしてお招きしました。田中氏には、五代友厚を主人公とした映画「天外者」の撮影時のエピソードなどをお話いただきました。寺尾氏には明治期の島津家を研究されているお立場から、下豊留氏には郷土史家としてひろく鹿児島の歴史研究に携わっているお立場から、鹿児島の近現代史に五代を位置付けていく際に留意すべき視座についてご提言いただきました。

当日は、現地・オンライン合わせて約200名の方々にご参加いただきました。本シンポジウムの開催によって、今後五代友厚を研究していく際にポイントとなる認識について、国内外の多くの方々とは共有することができました。